令和6年7月31日

令和6年度工賃向上セミナー I 農福連携事例発表

「より良い組織づくりのために」

有限会社 ぱぱな農園 青木一夫

ぱぱな農園は 伊那食品工業(株)のグループ会社



県・伊那市は信州の南に位置しています。 緑豊かなかんてんぱぱガーデンの中に本

社はあります。

日本の伝統食品である寒天の研究、製造、販売を中心に、地域社会の発展を 考えた事業を展開し、さまざまな分野で社会に貢献できるよう努めています。

かんてんぱば製品が全て扱う直覚店。



有限会社ぱぱぱま農園会社概要



有限会社ぱぱな農園

- 経営開始年 2006年5月10日
- 資本金 300万円
- 役 員 3名 (代表取締役社長 塚越 寛)
- 社員 9名 アルバイト 2名
- 本 社 伊那市西春近5681
- ・ 伊那食品工業㈱のグループ会社
- 営農類型 稲作・畑作(野菜・果樹)・農産加工 肥料製造(養土藻)
- 経営規模 耕作面積20.3ha(水田5.8ha /畑11.4ha /果樹3.1ha)

小規模農業でも経営できる 4つの経営方針

- ①社是実現の為、「年輪経営」の実践
- ②研究開発型農業でありたい
- ③土づくりから生産・加工・販売までの
 - 一貫供給体制(6次産業化)
- ④安全・安心・新鮮へのこだわりと 快適な職場づくり

経営方針① 社是実現の為、 「年輪経営」の実践

- ◆親会社の伊那食品工業㈱の社是「いい会社をつくりましょう」に準じ、信頼される・尊敬される会社と農産物の生産を目指しています。
- ◆遊休荒廃農地の活用 高齢化等による遊休荒廃農地を引き継ぎ、 農地の保全と地域の活性化に繋げます。
- ◆若い人材を採用し、新しい発想と改善により 楽しく働ける、魅力ある農業を目指します。

近隣の荒廃農地を引継ぎ、開墾





20ha中、17haが担い手不足による農地の引継ぎ

開墾後の農地活用





とうもろこし

長芋





ハウス ミニトマト

りんごの高密植栽培



野沢菜

伊那食品の結いによる各部署からの応援



野沢菜の収穫



ナガイモ種芋の植え付け

他にもトウモロコシの収穫、柿の収穫、水田の草刈りなど

経営方針② 研究開発型農業

◆農業の基本「土づくり」の為、養土藻の開発「アガーライト」 (寒天カスのリパック) 生土壌改良材

「新アガーライト」
乾燥土壌改良材

「養土藻」 発酵汚泥肥料



10kg袋 370円(税込) ◆養土藻の量産開始(2018年~) 1996年には、リサイクル推進功労者として、 「農林水産大臣賞」受賞



猪ノ沢工場 養土藻製造設備



垂直発酵攪拌機

経営方針③ 土づくりからから販売までの一貫供給体制と6次産業化への取組み

◆支店・ショップでの販売とレストランへの供給





- ・親会社の直営ショップ全国 17店舗で販売
- ・かんてんぱぱガーデン内レストラン 3店舗へ野菜の提供

◆農産加工



野沢菜漬け



キュウリと大根の漬物



野沢菜ラー油

野沢菜漬けの通信販売



野沢菜漬けを原材料とした野沢菜ラー油のコラボ商品



経営方針④ 安全・安心へのこだわりと 快適な職場づくり

- ◆環境に配慮した農法 緑肥作物(ソルゴーなど)のすき込みにより 化学肥料削減し、減農薬栽培を行う。
- ◆機械化による省力化
- ◆景観づくりへの取組み

◆環境に配慮した農法





緑肥作物ソルゴーの粉砕

マメ科へアリーベッチ

◆機械化による省力化①





88馬カトラクタ + 2.6mロータリー(耕運機)

88馬カトラクタ— + 13mブームスプレーヤ

◆機械化による省力化②



ナガイモ溝堀り機



アーム式ハンマーナイフモーア(畦畔草刈り機)

◆機械化による省力化③



農機具倉庫



トラック搭載マニアスプレッダー (肥料散布機)